



コロナ感染拡大がもたらした 予期せぬ長期休暇

思いもかけず、1月14日からの冬休みと引き続きの春休みの長期休暇、故郷で6年ぶりの満開の桜を見ることができた。年老いた両親の面倒を少しは見ることもできたし、さらには2月上旬に足を骨折した妻の勤務先への送迎をもやる羽目になってしまったが、それはそれで対応できて良かった。

3月1日前に帰校してはならない

本来であれば2月22日に重慶に戻り24日からの2学期(中国では9月から1月中旬までが1学期、そして冬休みを経て2月下旬から7月中旬までが2学期)の授業に臨む予定であった。しかし新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、1月27日、すぐには大学に戻らないよとの連絡、そして開校の延期が伝えられたのは2月6日、「外国人教師は3月1日前に帰校してはならないこと、具体的な開校時期については疫病防止状況に基づいて再度通知する」(川外控办[2020]6号)、また航空券の取り扱いについての指示もあった。1年に1回の往復航空券が大学から支払われるからであった。

同日、さらに中国教育部と重慶市教育委員会による「延期不延学」方針により開校は延期するものの授業は予定通りに実施、オンライン授業の準備を行うよとの指示もあった。

オンライン授業？ 何それ？

「えっ！オンライン授業？ 何それ？」というのが正直な気持ち、まずもって私にそのような授業ができるのだろうか、との不安がよぎった。早々に学部事務室からはマニュアルが送付され、24日から2週間の準備期間、その間は学生に対しての勉学指示、そして3月末日までの授業予定表の提出を求められながら、不安は増大して

えっ！オンライン授業？ どうしよう！

四川外国語大学 菊池 実

いった。

「う〜ん、どうしよう！」

当初、大学から指定されたアプリを使おうと思って試してみたもののマニュアルを読んでもよくわからない。その後、いくつかのアプリを紹介されて「腾讯课堂」を使用することに落ち着いた。しかしこれを使用するにも紆余曲折があり、結局は3年女子学生の応援で事なきを得た。中国人の先生方もこのアプリをよく使用しているようだ。

帰省中の学生には教科書がない

しかしそれ以前に問題があった。多くの学生はパソコンや教科書を寮においたまま帰省していた。パソコンのない学生はスマホで対応できる。教科書を持参するのはごく限られた授業、それは課題が与えられている授業の教科書である。そこで学習委員の協力で教科書の※PDF版を購入して何とか対応することができた。これは3年生の授業、2年生の授業では準備のために持参した教科書があり、これをスキャンして学生に※PPTで配布したりした。このように授業を始める前の準備が少々大変であった。



【自宅書斎から大陸に向けて授業を発信する】

大学院の講義資料がない

オンライン授業では2年生の会話と3年生の作文を担当している。大学院生の授業について

は参考図書を提示して補講で対応させてもらうことになった。というのも2年生については入学時から教えているので全員の顔と名前が一致していること、3年生については先学期から教えているのでこれも何とか大丈夫、しかし院生については今学期はじめて教えることになり、まだ顔も名前も知らない中での一方的な講義では不安があったことによる。さらにそれ以上に、大学院で使う資料一式を大学の外国人教師寮に残してきたことである。手元に講義資料が全くない、※PPTなどの資料はあるもののそれだけではなんとも心もとない。そんな事情によった。

時間差・音声不通・ネット環境…

2月下旬から始めた授業はすでに1ヵ月以上たった。ようやく使用方法も呑み込めて順調に事を進めているつもりであるが、失敗もたびたびあった。日本と中国の時差は1時間である。それをつい忘れてしまって予定より1時間早く授業に入ってしまったこと、後で学生からの指摘で気付いた。話をしていただいていたもの学生には全く聞こえていなかったこと、これは使用していたイヤホンの問題であり電気店で新たなイヤホンを購入して問題解決。重慶市郊外の田舎に住んでいる学生のネット環境はあまりよくなくてたびたび音声不通になってしまうこと、双方の会話に時間差が生じてしまいスムーズな会話ができないこと、特に2年生の授業ではこんなことが繰り返されている。教室での授業と比べるとやはり限界がある。そこで授業日の夜9時(中国時間午後8時)から2時間、※QQ(キューキュー)や※微信(ウィーチャット)、あるいは※スカイプを利用して会話の補足練習を行っている。これは全くのボランティアである。

慈眼寺の桜・行きつけの蕎麦屋・ 中島みゆき…

3年生の授業では教科書に基づいて実施、そして課題を与えての作文作成でこちらはあまり問題ないものの、100名を超える学生対象なのでパソコンの向こう側にいる学生がどれほど真剣に聞いてくれているのか少々不安。授業によってはベッドやソファーに横になりながら聞いて

ている学生もいるようだ。そこで※PPTを使って「枝垂れ桜で有名な高崎市慈眼寺」の紹介、私がよく食べに行く「お蕎麦屋さんやうどん屋さん」、そして「知の巨人」「私の好きな作家」「私が学んだ考古学者」などを順次公開、興味を示してくれるように工夫している。10分間の休憩時間に「中島みゆき」の歌を聴いてもらうのもそうだ。

いつまで続くのか

さてこうしたことがいつまで続くのやら。3月4日には学長からの外国人教師に対する慰問の手紙も届いた。学生に聞いてみると、大学からの開校通知はまだ来ていないものの4月の中旬から下旬にかけてではないだろうか、との返答。中国国内では新型コロナウイルスの感染が収束に向かいつつある状況(でも実際は?)、外国人の入国は3月28日以降暫定的中止措置がとられた。世界中で感染拡大が続いているからである。わたしのパスポートには「居留許可書」が貼られているが、それでも現在入国はできない。学生たちも長期間の自宅待機が続いているために早く大学に戻りたがっている。運動不足で体重が増えてしまったと嘆く女子学生、体育実技の授業はあるもののオンライン授業ではどうにも様にならない。

今、私は『感染症の中国史-公衆衛生と東アジア』(中公新書、2009年)を読んでいる。今回の感染症の根本原因、感染拡大に至った要因、政府による情報操作や隠蔽、様々なことを知りたいがために毎日の情報確認を怠らないでいる。長期の自宅待機が続いているが、オンライン授業への取り組みと情報の真偽を見極めたいことから、時間を有効に活用したいと思う。

※※※※

PPT：マイクロソフトのプレゼンテーションソフト PowerPoint で作成したデータを保存するためのファイル形式

PDF：印刷ページと同じ状態を保存するファイル形式 メール送信した時にファイルが変形しない

QQ(キューキュー)：微信(ウィーチャット)：ともに中国版メッセージアプリ LINEのようなもの

スカイプ：Skype：インターネット電話サービス